

7つの ケースで 予習!

こんな時
どうする?

受験を迎える わが子との接し方

受験勉強が本格化してくると、つい気を遣って腫物にさわるように接したり、子どももイライラしたり…。親子でナーバスになりがちですが、進路を決める大事な時期だからこそ、親子のコミュニケーションがとても大切。受験生のわが子にはどう接したらいいか、その時にあわてないよう、今からシミュレーションをしておきましょう。7つのケース別に、高校の先生にアドバイスを伺ってきました。

取材・文/菅家真理枝 イラスト/木村吉見



アドバイスをいただいた先生方



東京都立晴海総合高等学校
主任教諭
多田早穂子先生

東京都立晴海総合高等学校
主任教諭
小出和代先生



『生涯学習体系の教育』という特色を持つ晴海総合高校で、進路指導を担当されている両先生。様々なタイプの生徒や保護者との面談経験豊富で、最近の親子事情にも詳しい。

*先生方の肩書は取材時のものです



高3夏休み間近なのに、わが子の志望校、志望学科もわからない。教えてくれない

言いたくない場合と、決めきれない場合がある

——多田先生、小出先生、よろしくお願いします。

まずは、高3の夏休み間近になつても、志望校がわからなくて、保護者は心配でたまらないというケース。「志望校決めないとまずいよ」と言ってしまったていいんでしょ

うか？（以下編集部）

多田先生 そう言うと、よけいにからをかぶつて、萎縮してしまうこともあります。リミットはあると思いますが、話してくれなくても、少し待つてあげるほうがいいと思います。例えば、「一般入試でしたら、高3の始め頃に、志望の方向性や

やりたい分野が決まっていれば、具体的な志望校を絞り込むのは、もう少し後でも大丈夫です。夏の頑張りでぐつと伸びることもありますから。

——一般入試なら、まだ時間があるので、心配しなくていいのですね。とはいえ、ちゃんとやりたいことを考えているか、心配な場合はどうすればいいでしょう。

多田先生 例えば、「いつまでだったら、調べられそう？」という感じで聞いてみるのがいいでしょう。または、読んでいる本や、見ているテレビなど、興味関心のあるものから探りを入れて、「こういうの、おもしろいの？」と、声がけしてみると、何をやりたいのかを探るきっかけ

けになるかもしれません。
三者面談を機に探りを入れてみては？

小出先生 夏に、三者面談を行う学校も多いですから、三者面談で、志望校や方向性を確認できると思います。「三者面談があるから、その前に話しておこう」と、話すきっかけを作るのも一案です。

——先生の前で、親子で意見が合わないのも困るから教えといてね、という感じですね。
小出先生 そこで、志望校がわかる場合もありますし、本人が決まされていなければ、「進路室に行つて、資料を見てみたら？」「進路の先生に相談してみたら？」と促し



てみる方法もあると思います。この時期にまだ、考えられていない生徒は、進路室に行ったことがないケースも十分考えられます。

ポイント

- 焦つて問い詰めるのはNG。やりたい分野を探りながら、会話をしてみよう。
- 三者面談は話し合うチャンス。

OKワード NGワード

- 「もう高3なのに、まだ決めてないのか」
- 「いつまでだったら、調べられそう？」
- 「進路室に行つてみた？」



子どもが決めた志望校に賛成できない。 もっと、上を目指してほしい

まずは、そこを選んだ理由を聞いてみる

——子どもの志望校に保護者が賛成できなくて、ストレスが溜まることもあるようです。

多田先生 たぶん、保護者の考えているのは偏差値でいうところの上のことですね。偏差値だけではなく、その分野の中で「これを学ぶならこの大学」という特色や専門性の高さを調べるのが大事。親子で一緒に調べてもいいし、どうしてその学校なのかを、じっくり話をする必要があります。

小出先生 そのほうが就職しやすいからとか、先々自分がやりたいことがあるからとか、自分で考



えて選んでいる場合もあるかもしれません。選んだ経緯を聞いた上で、子どものビジョンがはっきりしているのであれば、親から見ている名の大学であっても、応援するしかないと思います。

昔の話をされる保護者の方も多いと思いますが、昔と今では、大学の評価も変わっています。昔それほどでもなかった大学の評価が上つていたり、その逆もありますので、保護者の方も情報を更新する必要があります。

こんな大学もあるけど、と提案してみるのはいアリ

——保護者は「そこじゃなくて」とか「そこよりも」と言いたくなる

のを我慢すべきなのですね。

多田先生 本人の選んだ大学を「そうなんだね。そこもあるよね」と認めてあげて、その上で、「こういう大学でも、その勉強はできそうだけど、ここは調べてみた？」と、提案してみるのはいいと思います。ご自身の価値観を、一方的に押し付けるのが一番よくないです。

——意外に、安易に大学のブランド名だけで、選んでいるかもしれない。

多田先生 そういう時は、「名前だけで、選んでいるんじゃないの？ やりたいことで選んでる？」と聞いていいと思います。逆に、「ここでいいやと今の自分でラクに入れそうなところを選んでるように思えた

時は「今それだけの力があるんだつたら、これから伸びるんだし、ここで決めなくても、もうひと頑張りしてみない？」と声かけをするといいかもしれません。

ポイント

- 選んだ理由を受け止めた上で、こちらの提案を切り出してみるのは二つの方法。
- 昔の偏差値や評価だけで判断していないか、保護者も情報更新をしよう。

OKワード NGワード

- 「そういうことが学びたいなら、こういう大学もあるけど、調べてみた？」
- × 「そこじゃなくて、もっと上の大学目指して頑張ったら？」

突然、地元外の私大に行きたいと懇願されてしまった。いろんな意味でピンチ！



**ただ親元を離れたいと
いうだけなら、注意が必要**

—— 経済的なことや、一人暮らしの心配もあるけれど、子どもの夢もむげにしたくないので、あたふたしてしまう例です。

多田先生 遅かれ早かれ、子どもは自立していきますから、自立するいいチャンスなのだと思えば、はいかがでしょう。ただし、その理由は確認しなくてはなりません。進学目的がはっきり定まってい

なくて、親元をとにかく離れたい、一人暮らしをしたいというだけなら、「それは主旨と違うんじゃない?」と話をしたほうがいいでしょう。—— 確かに、そうですね。

多田先生 経済的なこともあるので、一概には言えませんが、「地元外で遠くて通えないけど、どうしてもやりたいことがある」というのなら、なるべくなら認めてあげてはいかがでしょう。もちろん、それなりのお金をかけるのですから、親として「それを学ぶのなら出してあげられる」というのが納得できるかがポイントだと思います。

**お金の準備があるから
早く調べてねと促す**

—— 突然、こういうことを言いますというの、家の経済状態を知らない可能性もありますね。

小出先生 意外に、家の経済状況や入学手続きのためのお金のこと

や払い込むタイミングなどについて、親子で話し合いがされていないケースが多いんです。例えば、推薦・AO入試などでは、比較的早い時期に合否が出る場合もあります。早ければ秋ごろにまとまった金額を支払うこともあり得ますので、その場合は準備が必要ですが、親子で情報共有できていないと大変です。

多田先生 保護者の方は、経済的なことを曖昧にせず、家庭の経済状況と、どこまでならお金を払えるかということ、早めに伝えておくべきですね。

小出先生 そうですね。できれば早い段階で、「うちの経済状況はこうだから、いつまでにお金がい

ら必要か早く調べてね」と伝えると、志望校のことも調べ始めるのではないのでしょうか。—— それはいい方法ですね。

ポイント

- 親元を離れたいだけなら要注意。
- どうしてもやりたいのかを確認して、納得できるか。
- 経済的なことは、早めに子どもに開示。

- OKワード** NGワード
- 「ダメ、とにかくダメ」
 - 「どうして、その大学に行きたいのかな?」
 - 「お金を準備する都合があるから、早めに志望校を教えてください」

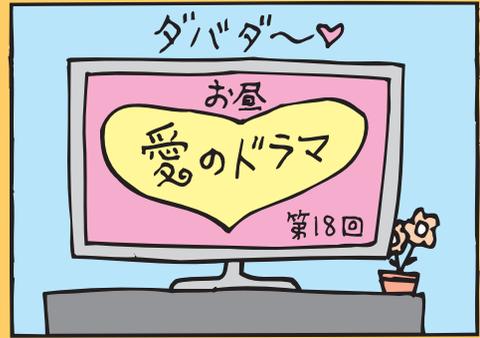


夏が勝負なのに、全然エンジンがかかっていない。そんなに余裕でいいの？

家は誘惑が多くて集中できないのかも

——高3の夏休みは、受験生の張りどころですが、家でだらりと過ごす姿を見かねた保護者が、「受験生なんだから」と言いたくなるようです。

小出先生 生徒は、「家は誘惑が多すぎて勉強できない」と、よくもらしています。だから、家に帰る前にどこかで勉強して帰るように言ったりします。家の近くの図書館を利用する子もいますし、なかには、ファーストフードを利用する子もいるようです。電車の中の隙間時間に、単語など暗記モノを覚えるといいよという話をよくしま



すね。

——外でちゃんと勉強していれば、家で少しぐらリラクセスしてもいいのかもしれないですね。家族もテレビなど見ないように、気を遣ったほうがいいのでしょうか？

多田先生 今は、テレビよりも、ネット、スマホですね。

ゲームやチャットに費やす時間が大きいと思いますが、これは、今や、やめさせるのは無理なので、やっていいけど勉強する時間も作るように、自分でルールを作らせるのがいいでしょう。

——急に言うのと反発されそうです。急から、高3の始めに、もう受験生だからとルールを決めさせたほうがいいですね。



学校の講習会に行かせる手もある

多田先生 夏休みは、ほとんどの学校で、講習会をやっていると思いますので、「学校で、夏休みに講習会あるって聞いたけど、そうなの？申し込んだの？」と確認するのもいいと思います。私たちも、「この子は受けておいたほうがいいな」と思う場合は、個別に声をかけるようにしています。

——学校に行くのはいいですね。

小出先生 本人も焦っていて、空回りしていることもあります。計画表があったら、見えるところに張っておいてもらうと、予定をチェックできますね。あとは、年間の模試



の予定はわかっているので、「模試の結果を見せて」と言っていていいと思います。「見せてくれないと、学校へ行って見せてもらうけどいい？」とか。

ポイント

- 家では集中できないのが子どもの本音。外で勉強することも、容認しよう。
- スマホやゲームのルールを作るなら、高3の4月がラストチャンス。

- OKワード NGワード
- ×「受験生でしょ。ゲームばかりしていいの？」
- 「学校で講習会があるんだって？行ってみた？」
- 「外で勉強する時は、どこにいるか知らせてね」



だんだんわが子の元気がなくなり、イライラが増してきた。どう対処すればいい？



聞いてあげるだけで
体調もよくなります

——受験勉強も佳境になると、お子さんのイライラに遭遇することも増えてきて、保護者としても対処に困る場面があるようです。

多田先生 せっかく勉強しているのに、結果が出てこないとか、自分のやっていることに意味があるのだろうかという気持ちがイライラにつながるのでしょうか。

小出先生 推薦・AO入試は年内早い時期に決まりますから、周りが決まってくる中、自分だけ取り残されているような気がして、焦って情緒不安定になるというのもあると思います。

——保護者は、どうしていいかわからず、腫物に触るような感じになりそうです。

多田先生 やっぱり、話を聞いてあげることですね。話をしやすい環境を作るといいと思います。「どうした？」「なんかあった？」とか声をかけてみると、話しやすくなるでしょう。

小出先生 聞いてあげれば、きっと体調も落ち着くと思います。保護者では難しい場合は、学校の先生や周りの信頼できる人にバトンタッチしてもいいでしょう。

また、褒めてあげるのも効果があります。例えば、「今朝は早く起きられたね」とか、些細なことでもいいんです。特に男の子には

効きますよ。

見守っている気持ちで
言葉に出してみよう

——受験勉強で、体力的にも無理が続くことも心配になります。

小出先生 不調は体に現れるので、小さな体のサインを見逃さないようにするのいいと思います。例えば、目の下にクマを作っているな、体調が悪そうだなと思ったら、声をかけてあげるといいですね。「食欲ないなら、ご飯じゃなくてうどんにする？」とか。不調のサインに気づけるのは、一番身近にいる保護者ですから。

多田先生 朝、起きられないなら、「ちゃんと眠れてる？」と声をか

けてみては？そういう声かけによって、見守ってあげているよ、ということが伝わるといいです。

ポイント

●一番、ストレスが溜まっているのは本人。話しやすい環境を作り、話を聞いてあげよう

●ちゃんと見守っていることを、言葉や態度で示そう。子どもも、安心するはず。

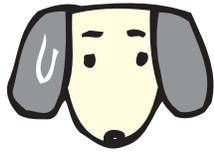
×「そんな弱気でどうする！」

○「どうしたの？」

○「何かあった？」

○「夜はちゃんと眠れてる？」

OKワード NGワード



受験真っ最中。まだ出ない。1校も合格が出ない。親も落ち込んでしまいそう…

——いよいよ2月。受かるはずのところに落ちてしまい、センター試験も予想外の結果。保護者も落ち込んでしまう事態に。

小出先生 最後まであきらめないようにしなくてはダメですね。保護者の方は「大丈夫よ」と言いつつ冷静を装ってください。内心は大丈夫じゃないんだけど、自分もだまし、子どももそれにのせる。自分も心配なのに、親まで心配している、よけい辛いですよ。ネットの合格発表を見た子どもから「だめだった」と言われたら、その瞬間、どうリアクション

すればいいのでしょうか。

多田先生 そこも冷静を装うしかないですね。「そっか、じゃあ、次だね」と。

小出先生 子どもの前では、落ち込まないで、夜中にひとりになった時に、泣いてください。

——この頃になると、「浪人」という言葉もちろつくかと思いますが。

小出先生 浪人すれば受かる確率は上がります。妥協して、受かったところに行くのか、1年頑張ったところに行くのか、どっちがいいかですね。家庭の事情もあると思いますが、本人があきらめきれないのなら、「じゃ、来年頑張ろうよ」という選択肢もあると思います。

小出先生 日常生活も、何もなかったように普段どおりにするのが大事です。些細なことですけど、ご飯も手を抜かないで頑張つて作ると、子どもも、「親も目に見えるところで、応援してくれているんだな」と思うのではないのでしょうか。高校生にとって食べ物はいみじいですよ。

多田先生 夜型になりがちですから、朝起こしてあげて、朝ごはんを食べさせて家から送り出すなど、生活のリズムを整えてあげるのも有効だと思います。

小出先生 勉強の指導は教師の

自分も子どもも大丈夫「大丈夫！」だと

——いよいよ2月。受かるはずのところに落ちてしまい、センター試験も予想外の結果。保護者も落ち込んでしまう事態に。

おいしいご飯と 当たり前前の日常でサポート

仕事ですから、ご家庭では、安定した生活をできるように、話を聞いたり、睡眠・食事のサポートで、応援していただきたいと思えます。

——平常心で、ずっと応援し続けることですね！

ありがとうございます。



OKワード NGワード

- 「大丈夫よ！」
- 「そっか、じゃ次だね！」
- ×「どこも受からなかったら、どうしよう！」

ポイント

- とことん、冷静を装う。
- 何もなかったように、日常生活を送る。
- おいしい食事などで、生活をサポートする。